

第1号議案

2022年（令和4年）度日本意思決定支援ネットワーク 事業報告 (2022.4.1～2023.3.31)

一般社団法人日本意思決定支援ネットワーク

1 事業実施の方針

- (1) 認知症高齢者、知的障害者、精神障害者など様々な事柄に関する意思決定を行う上で支援が必要とされる方に対する実践的意思決定支援モデルの開発事業
- (2) 実践的意思決定支援モデルの普及及び啓発事業
- (3) 実践的意思決定支援モデルの実践及び検証事業
- (4) 意思決定支援における評価指標の開発事業
- (5) 国内外における意思決定支援モデルの調査及び研究事業
- (6) 前各号に掲げる事業に附帯又は関連する事業

2 事業の実施に関する事項

事業名	事業	事業内容
実践的ファシリテーション (PFT) 研修事業	日本財団の助成を受けた 2 団体と委託契約を結び、下記のように PFT 実践を行った。なお、2021 年度の実施分については下記から除いている。	
	非特定営利法人 竹の里人	PSF 実践：8月8日、8月29日、9月19日、10月29日、11月20日、12月11日、1月8日、1月29日、2月19日、3月12日、3月26日の計11日間 PSF 評価：10月29日（事前評価）
	社会福祉法人 清流会	PSF 実践：4月27日、6月1日、6月3日、 PSF 評価：7月19日及び2月6日（事後評価）
PSF プログラム再編成及び実践	実践的意思決定支援ファシリテーション (PSF) プログラム再編	南オーストラリア州で開発された意思決定支援のためのファシリテーションプログラムであるPSFは、世界的に高い評価を得てきたが、今までその評価指標が作成されてこなかったため、本研究ではインタビュー調査によりPSFの評価指標の作成を行うこととした。日本においてPSFの実践に関与した経験を有する者8名が、ブレインストーミングによりPSFの実践課程で必要となる項目を出し合い、それらを目的と手段に整理した上で、全体で6項目のサブカテゴリーからなる2項目の直接アウトカムに関する項目、2項目の中間アウト

		<p>カムに関する項目、1項目の最終アウトカムに関する項目からなるPSF実践のロジックモデルを作成した。このPSFのロジックモデルの有効性の検証を行うために、日本においてPSFを実践した経験を持つ3名の実践者の協力を得た上で、作成したロジックモデルを基に構成した調査票により、インタビュー調査を実施することとした。PSFを実践した経験を持つ3名の実践者へのインタビューを終え、そこで得られた結果を踏まえてPSFのロジックモデルの修正を図り、その内容をPSFの実践に關与した経験を有する6名が意見を出し合った上で修正を図った。その上でPSFを実践した経験を持つ10名が修正されたモデルについて確認を行った。</p>
	<p>実践的意思決定支援ファシリテーション (PSF) プログラム実践</p>	<p>本事業は神奈川県と大分県の2か所で実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響、実施団体の担当者の都合、想定していた対象者の都合により実施することができなかった。</p>
<p>トーキングマット (TM) 普及啓発事業</p>	<p>日本語版 TM 開発チーム検討会</p>	<p>日本文化を反映したシンボル (絵) カードを作成し、トーキングマットのフレームワークを用いて会話を促進することを目的として日本語版のトーキングマット開発に着手した。</p> <p>【ミーティング開催日程と参加人数】 10月22日 (4名)、11月5日 (8名) 11月13日 (5名)、11月19日 (7名) 12月4日 (4名)、12月18日 (6名)</p>
	<p>クラウドファンディング</p>	<p>「揺れる心に見える化する「トーキングマット」日本語版を全部作りたい！」とのテーマで2022年3月21日～4月30日にかけて、クラウドファンディングを実施した。集まった資金については、業者手数料を差し引いた上で、新たに翻訳したカードについて英国トーキングマット社への印刷発注・輸入するための費用、デジタルトーキングマットの技術的開発等のために使用した。</p>
<p>トーキングマット (TM) 事業</p>	<p>トーキングマット基礎研修</p>	<p>トーキングマット基礎研修では、トーキングマット基礎研修を実施し、修了者合計 80 名以上を出し、その満足度が 8 割以上となることを目標として実施した。今年度はトーキングマット基礎研修を 22 回実施することができた。22 回のトーキングマット基礎研修により、計 107 名が修了</p>

		<p>した。研修修了後、参加者への任意アンケートを行った。回答者は107名中72名であり、その研修の満足度については、大変満足を選択した参加者は56名、満足を選択した参加者は16名でそれ以外を選択した参加者はいなかった。総じて研修に対する満足度が高く、トーキングマットを継続して実施することを希望する参加者が多くいた。</p>
	実践者のひろば（フォローアップ）研修	<p>トーキングマット基礎研修修了者が、より効果的にトーキングマットを活用できるように、参加者やトレーナーの実践を共有する目的で実施をし、毎回1～8名程度の基礎研修修了者が参加した。人数が集まらず、延期となった回もあったものの、毎回様々なトピックについてトレーナーや基礎研修修了生等から報告がなされた。</p>
	TM トレーナーミーティング	<p>基礎研修の内容を確認しつつ、より受講者に分かりやすい研修を実施できるよう毎月情報交換を行った。</p> <p>トレーナーミーティング実施日：4/9, 5/14, 6/11, 7/16, 8/27, 9/24, 10/15, 11/23, 12/24, 1/7, 1/8, 1/28, 2/25, 3/5, 4/1, 4/2（合計16回開催し参加トレーナー数は3～7名だった。）</p>
	TM 新カード開発班検討会（翻訳MT）	<p>年度当初の段階で未翻訳であった絵カードセットの全てを日本語化するために、以下の日程で翻訳作業に係るミーティングを実施した。なお、括弧内の数字は参加者数を示す。実施日：4/9（8名）、4/23（9）、5/14（6）、5/28（7）、6/11（7）、6/25（8）、7/8（4）、7/9（9）、7/23（8）、7/26（3）、8/1（3）、8/5（3）（合計12回）</p>
	TM 社とのミーティング（交渉・通訳）	<p>主として基礎研修及び実践のひろばの開催状況を報告し、TM社から改善のための助言を得た。具体的には、コロナ禍で対面研修に代わるオンライン研修の知見の共有や、アドバンスセットの活用方法、夏季に受講者を集める方法、トーキングマットのデジタル版の日本語化の進め方について等である。また、TM社で進められている新規の絵カード開発について説明を受けた。</p>

	トーキングマット研究者協議会	2022年4月5日、5月24日、6月8日、7月5日、8月2日、9月6日、10月5日、11月22日、12月20日、2023年1月30日、2月21日、3月7日の日程にオンラインミーティングの形式で開催した。メンバーは法人内の理事、コアメンバーが中心であり、各回2名～8名の出席があった。
	TM合宿（広島・新潟・東京）	トーキングマットチームが一同に介し、トレーナーミーティング、事業戦略会議、その他のテーマについての集中討議を実施した。
	TM事業戦略会議	TM枠組みの日本各地への普及と啓発を目指し、事業戦略を協議するための会議を実施した。参加者の時間的制約に対応するため、年度途中からトレーナー会議と事業戦略会議を同日に時間を分けて実施することにした。TM事業戦略会議実施日：4/23、5/28、6/25、8/6、8/27、9/24、10/15、11/23、12/24、1/7、1/8、1/28、2/25、3/5、4/1、4/2（合計16回開催し、参加者数は5～12名だった。）
リスクのとらえ直し（PRT）研修事業	研修会準備	PRT研修プログラム試行版の開発、及びその効果測定に関する検討を行った。 【ミーティング開催日程と参加人数】 4月4日（2名）、5月15日（2名）、6月3日（2名）、6月7日（2名）、10月18日（2名）、11月6日（2名）、12月12日（2名）
リスクの捉え直し（POSITIVE RISK TAKING）研修プログラムの開発と検証	PRTプログラム研究会	2021年度に作成した日本版PRT研修プログラム動画を用いた研修の構築、及びその研修プログラムの効果測定に関する内容の検討及び評価、PRT研修実施に向けた打ち合わせを行った。 【ミーティング開催日程と参加人数】 4月4日（2名）、5月19日（2名）、6月3日（2名）、9月21日（1名）、10月18日（2名）、11月6日（2名）、12月23日（2名）、1月15日（2名）、2月28日（1名）
	PRTプログラムの実施と検証	PRTプログラム実施：プログラムは、4つのモジュールから構成されている。モジュール1ではリスクとは何か、そして自分自身のリスクをとった経験について振り返る内容になっている。モジュール2は、保護と選択のバランス、そしてそのようなことを考えるための材料として言葉かけの在り方について検討する。さら

		<p>に、リスクの考え方である何かを行った時、あるいは行わなかった時に起こり得るポジティブな結果、ネガティブな結果を考えるワークに取り組む。モジュール3では、生活におけるリスクがあると見做されやすい活動について日本版の動画を使って取り上げ、リスクをとらえなおすための4要素(①先ずポジティブに応答する、②本人の選好に誠実である、③事前的に対応する、④弊害を最小化する)についてワークを通じて学ぶ。モジュール4ではリスクのとらえ直しを実践していくための、4つの留意点(①協働、②背景条件の考慮、③計画、④説明責任)について考えるワークを行う内容である。</p> <p>PRT 研修効果検証：PRT プログラムの受講前、受講後に、リスクに関する認識等に異なりがみられているか、知識が習得されているかを検証するための調査を行った。</p> <p>完成プログラムの英訳作業・日本語独自の部分(シナリオ等)の英語化：開発者である、Bigby, C 教授に対する報告のため、日本独自のシナリオや、ワーク部分についての翻訳作業を行った。</p>
<p>重度の障害のある人の意思決定支援にかかる記録化検討事業</p>	<p>重度障害のある人の選好の把握と意思決定支援に関する研究会</p>	<p>障害福祉サービス利用者の支援記録の分析に関する検討：知的障害があるために、言語やジェスチャーでコミュニケーションをとることが難しい方を対象とした選好把握とその記録化のプログラム化に向けて、芹が谷やまゆり園をフィールドとして、試行した。4名のモデルケースの生活支援記録をもとに、支援職員とディスカッションを行った。記録については別途分析作業を行い変化について検討を行った。</p> <p>身体機能障害により意思表出が困難な方に対する ICT 機器等を利用した選好情報の収集とその効果に関する検討：身体機能の障害により、言語表出・ジェスチャー等も困難な協力者に対し、協力者の随意運動が可能な部位に応じた ICT 機器を活用した選好の表出の見える化と収集、その効果検証を試みた。社会福祉法人 ワーナーホーム 事業所 すくすくに対し、できわかクリエイターズ 引地氏により、7月には勉強会を行い、9月以降は事業協</p>

力者に必要な機材を使った実践をみてもらったり、機材準備と実践を行った。ICT機器を使った支援に関する知識がない支援者のうち、事業協力者と関与する機会が多い3名の支援者を対象として、引地氏によるトレーニングを実施するとともに、事業協力者に対するフィッティングの実践状況のフォローアップ等を行ってもらった。我々は、周囲の人の事業協力者へのかかわりの変化を観察するとともに、コンサルテーションを行った。その関与においては、事業協力者自身の変化、並びにその支援者のかかわりや態度の変化を中心に検討を深めた。

ICT機器のフィッティング後の、対象事業所へのSDM-Japanメンバーによるコンサルテーション：10月28日のできわかクリエイターズ引地氏によるレクチャー後、すぐに支援者が実践できるようになることを想定していた。予想通りスイッチは活用できている様子だったが、H氏の病状の変動により、視線入力装置のセッティングが難しい状況が見受けられ、4月までセッティングでの不安感を支援者は感じていたことから意思決定支援に関するコンサルテーションの実施に至る前に2022年度事業の終了時期を終えた部分もある。ただし、本事業実施に法人メンバーも伴走し、フィッティング前後コンサルテーションを行っている。2022年9月9日、10月27日、2023年1月4日、1月16日、4月21日に支援者と面接を行い、実践についての聴取を行っている。その中では、ICT機器を利用する中で共に働く支援者や主に本事業に関わっていた支援者自身の関わり方について変化の兆しが見えることが語られた。具体的にはスイッチの設置位置や細かな生活に関する意向等についての聞き取りを支援者が注意深く行うようになったというような、ご本人の表現に対して、支援者の応答性が高まっていると考えられる内容が語られた。

プログラムに関するWatsonらとの意見交換：オーストラリア連邦ビクトリア州メルボルンにあるDeakin Universityにおいて、Dr Joanne Watsonとの協議を行っ

		た。Watson 教授とは、神奈川や千葉で行っている「選好の記録化と共有」事業に関する取り組みの様子を中心に意見交換した。特に、コミュニケーションの困難な人の意思決定支援について、動画観察による選好情報の抽出と検討を行う方法の重要性を確認した。
地域生活意思決定支援共同事業事務局	事務局立上げ	2022 年 4 月、豊田市事務局と合同で事務局を立ち上げ、以後、1 週間に 1 回程度、協議を行う機会を設けた。また、日本財団も交えた三者協議は 1, 2 か月に 1 回程度実施した。2022 年 4 月から 5 月にかけて、全体委員会、各ワーキング・グループの構成員について検討、打診を行い、豊田市との連携に必要な端末等の機材についても調達を行った。その他、事務局としての活動を円滑にするために、SDM-Japan メンバーを中心に協力を依頼した。2022 年 10 月 25 日、豊田市、日本財団、SDM-Japan は、「障害者・認知症高齢者等の意思決定支援事業に関する連携協定」を締結し、同年度は豊田市における支援の枠組み構築・実践の実証実験を行い、2023 年度以降は枠組みの効果検証・見直しや、全国での実践例を増やしていく予定であることを広く周知するためにプレスリリース、記者発表を行った。
	全体委員会の立上げ	豊田市成年後見・法福連携推進協議会の身寄りのない方への支援の在り方部会と合同で、全体委員会を設置した。事業の適切な遂行のため、各委員には、①研修 WG、②アドボケイト WG、③評価 WG の 3 つのワーキング・グループの進捗状況の確認や全体方針について意見を求めている。
	研修ワーキング・グループ【研修 WG】の立上げ	意思決定支援サポーター及び地域生活支援事業者に対する研修プログラムの内容検討とテスト研修を実施した。
	SDM アドボケイトに関する検討ワーキンググループ【アドボケイト WG】の立上げ	2022 年度全体では 8 回開催された。アドボケイト視点を持った意思決定フォロワーの養成と実践へのサポート、独立アドボケイト活動の推進のために当 WG を立ち上げた。年度前期は、フォロワー支援及びアドボケイト視点を意識するための「報告様式（様式第 3 号）」を豊田市との協働により作成し、年度後期は、権利擁

		<p>護支援専門員（アドボケイト担当）がフォローの支援を具体的に行う中で感じられる課題を整理するなどの活動を行った。</p>
	<p>評価指標ワーキング・グループ【評価 WG】の立上げ</p>	<p>・8月13日（土）13時～15時、9月24日（土）16時～18時、11月6日（日）10時～12時、1月22日（日）15時～17時、3月19日（日）15時～17時の計5回実施された。</p> <p>・検討内容・第1回：各年度ごとの評価WGの予定、今年度の評価WGの予定、評価内容・評価対象・評価方法、評価項目、評価実施体制・分析方法・留意事項（実施方法・手続き）について説明および意見交換が行われた。</p> <p>・検討内容・第2回：今年度評価WGにおいて実施することについて、今年度実施すること：（2）事例検討、今年度実施すること：（3）研究倫理審査申請について説明および意見交換が行われた。</p> <p>・検討内容・第3回：今年度評価ワーキング・グループにおいて実施すること、今年度実施すること：（1）ニーズ評価、今年度実施すること：（2）プロセス評価、今年度実施すること：（3）アウトカム評価について説明及び意見交換が行われた。</p> <p>・検討内容・第4回：今年度の評価WGで実施すること、ニーズ評価インタビューガイド、ニーズ評価の結果、今後の予定について説明および意見交換が行われた。</p> <p>・検討内容・第5回：プロセス評価、アウトカム評価、次年度に向けてについて説明および意見交換が行われた。</p>
	<p>ダービーシャー州その他のIMCA事業所との会合</p>	<p>トーキングマット社：2022年10月17日及び11月23日の定例協議にて、2023年度にアドボカシー先進地であるスコットランドを訪問しアドボカシー団体の活動を視察・調査するため、貧困地域での支援事業に実績があるトーキングマット社に相談した。両会議へ名川代表、水島副代表、小杉副代表が参加した。10月17日、当団体が日本財団の助成事業で豊田市で「自治体との連携による障害者・認知症高齢者等の意思決定支援モデル事</p>

		<p>業」を実施中であることを説明した。TM社から①渡英時期、②視察目的、③視察希望を次回までに共有することになった。11月23日、TM社へ上記を取りまとめた資料を提出した。TM社がスコットランドのアドボカシー団体を複数紹介してくれることになった。なお、SDM-Japanがアドボカシー団体を個別に訪問すること、もしくは、TM者が調整し、各団体の代表者に集ってもらいワークショップをすることも可能であると説明された。日本財団の助成金が確保できたらSDM-JapanとTM社で検討することになった</p> <p>エセックス大学：2022年7月24日、来日中のWayne Martin エセックス大学教授と面談し意思決定支援における意思及び選好の最善の解釈等について議論した。その際、当団体が日本財団の助成事業で豊田市で「自治体との連携による障害者・認知症高齢者等の意思決定支援モデル事業」を実施中であることを説明した。</p> <p>Wayne教授から、2023年に開催するエセックス大学のサマースクールで豊田市での意思決定支援モデル事業を発表することを含め、サマースクールの企画に参加してはどうかとの打診を受け、以下の日程で協議を行った。12月12日、1月19日、1月26日、2月9日、3月8日、3月9日、3月23日（合計7回）</p>
	政策的シンポジウムの開催	<p>広く本事業の存在と効果を周知するべく、政策的シンポジウムを実施した。対面とオンラインのハイブリッド型のシンポジウムであったことから、オンライン配信業者の助力も得ながら実施した。</p>
神奈川県意思決定支援研修の実施	神奈川県からの委託を受けたかながわ障がいケアマネジメント従事者ネットワーク(KCN)が「意思決定支援ガイドライン研修事業」を実施した。SDM-Japanはこのうち、講師の依頼を受けてガイドライン研修を5回行った(9/20, 10/25, 11/15, 12/6, 1/17)。また「意思決定支援実践に向けた専門研修(基礎)」については5日間のプログラムを構成し実施した(10/21, 11/4, 12/7, 1/10, 2/7)。	
芹が谷やまゆり園等における意思決定支援コンサルテーション	社会福祉法人 かながわ共同会より意思決定支援に関するコンサルテーションを求められ、意思決定支援に関するコンサルテーションを10回依頼され実施した。(2022年5月2日、6月13日、7月28日、8月29日、9月5日、10月4日、10月26日、11月17日、11月30日、2月6日)	